

土星 [39°, 267°]、月 [59°, 279°] の値となります。同年 2 月 10 日の日の入 30 分後の場合を知りたい時は、2 月 1 日と 3 月 1 日の間で図 27 の上で補間して下さい。観測の時に惑星を見つけるのが目的なので、この程度の値で十分です。また、惑星は黄道に沿った 12 星座にいて、明るく目立つので見つけやすいはずですが。この図 27 をもとに、日の入後の惑星や月の位置を前もって知っておくと、観察計画を立てやすいでしょう。

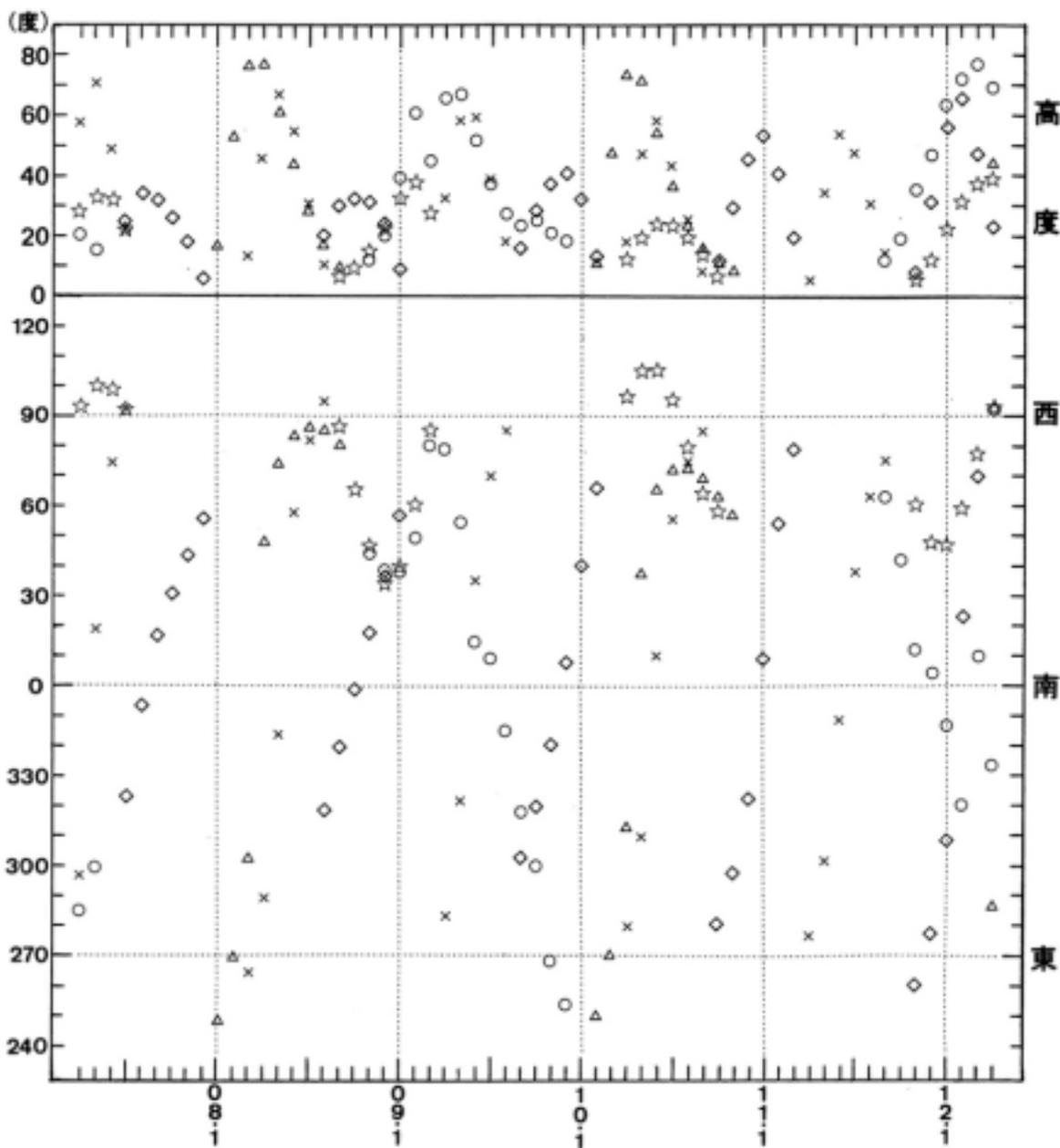


図 27 (続き) 毎月 1 日の日の入 30 分後の時刻における金星、火星、木星、土星、月の高度と方位角。横軸の目盛は 1 か月きざみ (例えば 03・1 は 2003 年 1 月 1 日の意味)、縦軸の目盛は 10 度きざみ。場所は大阪

(2) また、第5章で紹介した四季の星座のいくつかを、星野写真(当地学教室撮影)として図28~52に集めました。

引用文献

井上圭典・鈴木邦裕『暦泉』海文堂(1991)

国立天文台編『理科年表』丸善(2002)

暦計算研究会編『新こよみ便利帳』恒星社(1991)

松村三十四「金星の満ち欠け説明器と昼の金星の観測」大阪と科学教育 6(1992) p.37

J. Meeus『Astronomical Tables of the Sun, Moon, and Planets. 2nd. ed.』Willmann-Bell, Inc. (1995)

『天文観測年表』同編集委員会編 地人書館(2002)

『天文年鑑』同編集委員会編 誠文堂新光社(2002)